はしがき

本書は，2010年創立の世界史研究会が数年にわたって継続している歴史教科書比較研究プロジェクトの一成果である。本企画は２段階にわたるもので，第１ステージは「歴史教科書比較調査研究報告」として完了し，『世界史研究論叢』第11号（別冊，2022年３月）に成果が掲載された。当初，企画立案の契機は以下の事情によっていた。

2018年７月に公表された文部科学省の「高等学校学習指導要領解説・地理歴史篇」第１章総説には次の記載が読まれる。「情報化やグローバル化が進展する社会においては，多様な事象が複雑さを増し，変化の先行きを見通すことが一層難しくなってきている」「このような時代にあって，学校教育には，子供たちが様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して課題を解決していくことや，様々な情報を見極め，知識の概念的な理解を実現し，情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」（１頁）。また，第２章第３節「歴史総合」には次のように記されている。「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す」（121-122頁）。

上に引用した方針に即して学習指導要領が改訂され，たとえば日本史は「歴史総合」と「日本史探究」に改編された。それに伴い，教科書も大幅に改訂されることになった。それに合わせてまずは⑴改訂前の主要教科書を調査し，次に⑵2022年以降の新学習指導要領に即した教科書を調査するという作業が研究会メンバーの課題となった。むろん種々の制約があるのですべてを網羅できないものの，まずは⑴の一端を整理してみることにしたのである。その成

果が上記の「歴史教科書比較調査研究報告」である。

ついで第２ステージを開始するにあたって，第１ステージにおける反省点を考慮することとした。⑴第１ステージでは参加メンバーによる相互討論が乏しかったこと。⑵教科書を使用する現役高校教員の参加が少なかったこと。以上の懸案のうち１点目は，おりしもコロナ・パンデミックが世界各地に猛威を振るったことによって，リモート会議が格段に開催しやすくなったことで解消した。その結果，首都圏のほか福岡や大阪に在住するメンバー相互の定期的な協議が順調に進められた。２点目については，本会メンバー以外に広く参加を求めるという方針を採用し，あらたに現役高校教員の参加を得て大幅に改善された。

さて，本書は，いわば歴史学習の道具箱である。その引き出しには，⑴情報・知識習得法のほかに⑵クリティカルな思考方法が収められている。⑴情報・知識は，汎用性はあるもののまだ素材でしかない。それを将来の仕事や生活に活用できるよう，Do It Yourself（自分仕様に改編）する必要がある。それには⑵柔軟で批判的な思考を身につけなければならない。「歴史」だけなら知識の整理箱かもしれないが，「歴史総合」となれば自分なりの知識をthinkingしDIYするための道具箱となる。賛否両論あるChat-GPTの有意義な活用の成否は，学習者たちのDIY精神にかかっている。本書はそのためのトリセツでもある。ただし，本書は生徒向けというよりは，「歴史総合」に携わる現役教員・教員志望者にとって授業作りの参考になるよう配慮され，併せて「世界と日本の近現代史」に興味を持つ一般読者がそのテーマを理解するための見取図となるよう配慮されている。その上でテーマごとに「ブックガイド」を併載し，教員が授業準備をするにあたって役に立つ書籍や，生徒・一般読者に読ませたい書籍を紹介している。

さて，私立親和中学校・女子高等学校長補佐の勝山元照は，論稿「新しい世界史教育として『歴史総合』を創る」（小川幸司責任編集『岩波講座世界歴史１　世界史とは何か』岩波書店，2021年，308頁）において，以下のように記している。

将来の歴史アマチュアとしての生徒が培う市民的資質（シティズンシップ）

について，次の三点が肝要と考えている。

①「歴史像」について，「自分の頭で考え自分の言葉で表現」できる。

②「根拠」を確かめ，「視野」を広げようと努力することができる。

③「存在に対する敬意」をふまえ，他者との「対話」を重ねることができる。

以上３点の中からさらに１点をピックアップするとすれば，私は③を選ぶ。「市民的資質」のキー概念は「存在」だからである。これまでの学校教育では「参加」が重視されてきた。けれども，存在なくして参加はない。たとえば基本的人権は存在において基礎付けられるべきである。「存在に対する敬意」こそ，あらゆるコミュニケーションの前提となるべきなのである。

なお，私個人は1990年代に，旧浦和市（現さいたま市）の市民有志（高校生を子どもに持つ親世代中心）で歴史教科書比較研究会をつくり，日本史教科書の近現代分野に関する比較調査を行った経験を有する。活発な議論を経て出来た成果は，『高等学校日本史教科書の比較』（全３冊，歴史教科書比較研究会，1996年）として公開された。現在は埼玉県立図書館，埼玉県立総合教育センターほかに所蔵されている。その編集作業をホップとすれば，先述した第１ステージはステップ，第２ステージはジャンプに当たる。その経緯に鑑みて，本企画は熟慮断行の成果と言えよう。

世界史研究会顧問　石塚正英